

水稻の生育情報

中干し終了後は、間断かん水に取り組みましょう。

概況 (6月20日 水稻定点ほ場調査結果から)

6月中旬の平均気温は平年と比較してやや低く、日照時間はやや短めでした(図)。

水稻の生育は平年に比べて、草丈は低い～やや低い、茎数は少ない～平年並み、葉色は濃く推移しています(表)。

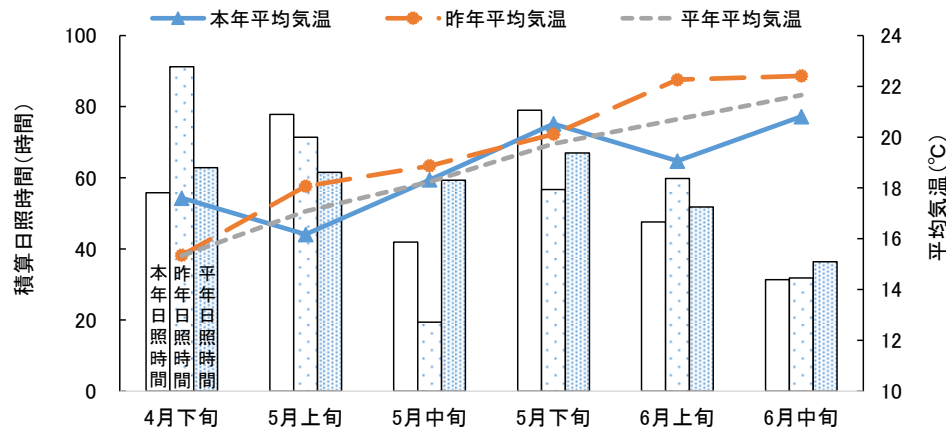


図 4月下旬から6月中旬の旬別平均気温と日照時間(古河) (注) 平年値は1991年～2020年の平均値
表 定点ほ場の生育調査結果 (令和4年6月20日現在)

品種	調査地点	田植日	植付本数 本/株	栽植密度 株/m ²	草丈 cm	茎数		葉色 葉色板
						本/株	本/m ²	
コシヒカリ	坂東市	4/26	4.6	15.2	53.1 (65.3)	32	553 (662)	4.7 (3.9)
	境町	4/29	4.3	15.2	54.0 (62.7)	42	630 (612)	4.6 (3.9)
	五霞町	5/5	6.9	14.5	51.2 (56.8)	39	561 (537)	4.5 (3.8)
	古河市	5/8	4.7	17.5	49.2 (55.3)	24	413 (547)	4.3 (3.9)

※坂東市はほ場内で部分的に生育が悪い場所があり、調査は1反復。()内は過去5年間の平均値。

今後の栽培管理

中干し終了後は、3～4日間隔で入水と落水を繰り返す「間断かん水」を実施しましょう。

○中干し終了の目安

田面にひびが入り、イネの葉色が淡くなったとき(葉色板で4.0程度「若竹色」)が中干しの終了時期となります。なお幼穂形成期(5月上旬移植の場合は概ね7月上旬)以降は成長に水が必要となりますので、それまでには中干しを終えて間断かん水に切り替えましょう。

○追肥について

中干しによりイネの葉色が淡くなった場合でも、この時期の追肥は倒伏の原因となりますので、追肥は控えましょう。同様に、基肥一発肥料を使用したほ場でも中干し後に緩効性の窒素が出てくるので、追肥は控えましょう。

コシヒカリの場合、追肥適期は出穂15日前(幼穂長30mm)が目安です。

[次号は6/30に調査した結果を基に、7/5ごろ発行予定です]